



今月の内容：

今月のトピックス／特集！「南会津の水稻直播栽培」／南会津再発見「田島祇園祭」／この人を知りたい（南郷村 星 哲夫さん）／今月のコラム／研修会・講習会等お知らせ

今月のトピックス

第52回南会津地方植樹祭開催される

5月26日、只見町布沢「東松山国有林」において南会津地方植樹祭が開催されました。

これは、南会津地方緑化推進委員会、只見町緑化推進委員会、只見町及び会津森林管理署南会津支署の共催によるもので、公募による一般参加者や地元の只見町立只見小学校、朝日小学校の6年生と明和小学校の緑の少年団員を含む約260名が参加し、1,500本のスギ苗木などを植え、緑づくりを行いました。

式典の中では、只見町の梁取和男さんほか5名の方が緑化功労者として表彰された後、南会津産の木製のおもちゃを販売している(株)高島屋から、その売り上げの一部を南会津地方の緑づくりに役立てるよう、南会津地方緑化推進委員会に寄付金の贈呈がありました。

また、参加者を代表して明和緑の少年団から「郷土の



緑を守ります」と誓いの言葉が述べられました。

植栽地は、只見町と会津森林管理署南会津支署が「ボランティアの森」の協定を結び、「東松山体験の森」と名付けられました。

今後、森林の尊さ、森林整備の重要性を認識する場として活用されます。

なお、今回の植樹祭は、式典会場設置で木材のチップを敷き詰めるなどの環境への配慮が認められ、県認定の「うつくしまエコイベント」で最高ランクの5つ星の認定を受けました。

(森林林業部)

農業体験学習が盛ん!

総合的な学習の時間を活用した、都市部の小中学校による「農業体験旅行」が南会津郡内でも現在盛んに行われています。去る5月14日(水)には舘岩村で仙台市の上杉山中学校の2年生約130名が、田島町では東京都の東京学芸大学付属竹早中学校の2年生約150名がそれぞれ田植えの体験学習を行いました。

舘岩村の田植え体験では、田んぼに入るのは初めてという生徒が多く、泥に足を取られて歓声を上げながら田んぼを歩き、慣れない手つきで苗を植えていきました。田植えの後にはグループに分かれて体験活動、翌日には日光方面を観光するとのことで、こういった体験学習と観光との組合せが「体験旅行」の一つのスタイルになっているのかもしれません。

(地域農林企画室)



ブナハリタケ栽培の講習会を開催

(平成15年度地域定着型実証検定講習会)

去る5月12日、舘岩村、(財)福島県きのこ振興センターの協力のもとブナハリタケ栽培講習会を木賊地区で開催しました。当日は食品加工業や農業を営む15名の方の参加があり関心の高さがうかがえました。

木賊地区で食品加工業を営む平野隆一さんによると、南会津地域では郷土料理に欠かせないきのことして需要があるとのことでした。また近年、ブナ林の減少や野生きのこの乱獲等により資源の枯渇が心配されています。

これまであまり人工栽培されてこなかったブナハリタケを地域の皆さんが栽培することで、そうした不安を解消し農林家の経営の一助となればと考えています。

(森林林業部)



御田植祭行われる

新嘗祭（にいなめさい） 献穀田の御田植祭が5月23日、田島町塩江の杉原義幸さんの水田で厳かに行われました。

新嘗祭とは、天皇陛下がその年の新穀を神々に供え、自らも食する祭儀です。古くは陰暦11月の中の卯の日に行われましたが、近時は11月23日に行われ「勤労感謝の日」として国民の祝日となりました。献穀者は、毎年県内2カ所から地域農業の振興に功績などがある農家が推薦されます。田島町で献穀米が栽培されるのは昭和45年以来33年ぶりとあって、会場には農業関係者や地域の皆さんなどが大勢集まりました。

祝詞奏上等の神事が執り行われた後、杉原さん、室井英彦町長、早乙女代表芳賀沼フジエさんらが玉ぐしをささげ、おはらいをうけた本県オリジナル品種「ふくみらい」の苗が7人の早乙女の手に渡され、注連縄で囲まれた献穀田に、丁寧に植えられました。

献穀米は10月に収穫され、このうち白米5合が皇室に献上されます。杉原さんは「このうえない名誉です。精魂込めて育てます。」と話していました。

（農業振興部）



家族で「森林の大切さ」を学ぶ

南 会津地方緑化推進委員会主催によるファミリー緑の教室が、今年も去る5月10日に開催されました。今年も、館岩村緑化推進委員会の共催により館岩村の「しらかば公園」において開催され、南会津郡に住む小学生の家族79名が参加しました。

これは、家族で自然にふれあい、楽しみながら森林の働きや大切さを学んでもらうことを目的として、毎年開催されており、今回で17回を数えます。

館岩村在住の森林インストラクター、芳賀朝美さんから自然に親しむための心構えについて説明を受けた後、ネイチャーゲームやシイタケの植菌などを行いながら遊歩道を散策しました。

午後からは木工教室を行い、自然のままの小枝を材料に創造力を働かせながら、思い思いに昆虫や動物などを作り、最後に参加記念として参加者全員でオオヤマザクラを植栽しました。

来年度の開催地は檜枝岐村の予定です。また、今回のイベントは「うつくしまエコイベント」として、最高ランクの5つ星の認定を受けました。

（森林林業部）



★ 特集！



南会津の水稲直播栽培

（農業普及部）

南会津における水稲直播栽培は、平成11年の26haをピークにその後は減少し、平成13年は6haとなってしまいました。主な原因は、高冷地での春先の低温による出芽不良や、雑草の繁茂による減収が原因でした。

平成14年より技術的に収量の安定を図るため、第1に「打ち込み式点播機により一定の深さに播種」、第2に「落水出芽法の徹底による苗立ちの安定」、第3に「除草剤の体系的処理による雑草防除」を徹底することにしました。この年は、ほ場による収量のばらつきが大きかったものの、高収量を上げた生産者も多く、

15年への大きな足がかりとなりました。

直播を行う場合の減収の3大要因は、①出芽のばらつきと雑草の発生、②苗立ちの不良、③出芽時の鳥による被害です。さらに、初めて直播栽培を行う場合は、代かき日の調整が必要であること（代かきから播種までの日数によって土の硬さが変わる）や、前年が休耕田だった場合にはノビエが多発するため雑草対策が重要であるなどの問題があります。

しかしながら今までの南会津における直播栽培の先駆者たちの努力と経験により、1つ1つの問題が解決され、平成15年には郡内の直播栽培面積は過去最高の55haとなりました。

特に伊南村では平成14年より全自動カルパー粉衣機と打ち込み式点播機を導入して、伊南村稲作作業受託組合を核とした村全体の直播作業体系が確立しています。生産者も意欲的に取り組み、栽培管理技術も安定してきています。

今後は、高冷地での直播栽培の新しい技術を確立していくとともに、担い手を中心とした生産組織の育成を地域ぐるみで行っていく必要があると考えられます。

田島祇園祭

(田島町農林課)

日本三大祇園祭の一つで、毎年7月22日から3日間開催されます。

八百余年の伝統を誇る古式豊かな夏祭りです。起源は田の神の祭りとして、中世の領主長沼氏によって現在の形に整えられました。1年がかりで行われる神事は「お党屋制度」により受け継がれ、昭和56年に国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

古式ゆかしく行われる七行器行列（ななほかいぎょうれつ）は、祇園祭のメインで、七度の使いの少年の後に、氏子から神前に御供え物を献上する「ほかい」の列が続きます。

夕方からの呼び物の大屋台は、子供たちをたく



さん乗せ、祇園ばやしを奏でながら町内を押し歩いたり、子供歌舞伎が上演されたりします。子供歌舞伎は、町内の小・中学生により演じられていますが、田島祇園祭屋台歌舞伎保存会では、子供歌舞伎の指導を通じ、伝統芸能である屋台歌舞伎の保存活動に取り組んでいます。

最終日には神社の森の神楽殿で、終始無言の民俗伝承「神楽舞」と「浦安舞」が奉納される太々神楽（だいだいかぐら）が行われます。

また神社では、祭期間中にだけ許される、どぶろくが振舞われます。

この人を知りたい

いつでも山に帰って来いよ

南郷村 星 哲夫さん



星さんのお宅を訪れたのは夕方、哲夫さんが仲間と山で雪起こし（小さいスギが雪で倒れているのを起こす作業）を終えて帰宅した時でした。帰り際に採取してきたというワラビは太く、ここは山菜の宝庫だと誇らしげに話す哲夫さんの笑顔に迎えていただきました。

哲夫さんは只見町の電源開発田子倉発電所を定年退職後、仲間と和泉田造林組合を設立し、現在まで13年間、地元大林地区共有地の伐採跡地など70haを、林業公社造林として植栽から雪起こし、下草刈り、除伐、枝打ちなどの手入れを行ってきました。哲夫さん達の造林組合は10名前後。丁寧な山仕事には林業公社も厚い信頼を寄せています。

子供達の手で地元の自然に触れさせたいとの考えを抱いていた哲夫さんは、昨年、南郷中学校の校長先生や村に相談し、10月20日の日曜日に林業公社の山でスギの枝打ち体験学習を開催しました。当日は中学3年生16名を始め、校長先生、父兄、一般参加者、地元和泉田地区のさいたま市ふるさと自

然の家宿泊者、ボランティアの造林組合の作業員、林業公社の職員など計30名が参加しました。レンタルの仮設トイレも哲夫さん達の自費。生徒達は初めての枝打ちに夢中だったそうです。お昼には地元老人クラブのボランティアによる豚汁やきのこ汁を囲みながら将来の夢について語り合いました。哲夫さんも、これから高校、大学、社会人と歩んでいく中で、壁に突き当たった時は山を思い出し、地元に戻ってみんなで枝打ちをした（大きくなっているであろう）スギに耳を近づければ、きっとスギは話返してくれると熱く思いを語ったそうです。

今、哲夫さんには一つの大きな夢があります。それは地域住民と都市住民の交流を通して山の手入れを進め、地域の活性化を図ること。雪折れ等の樹木をキノコのほだ木とし、さいたま市ふるさと自然の家を利用している都会の人々にほだ木の里親になってもらい、きのこを収穫しながら周囲の森林の手入れも楽しんでもらうというもの。さらに有料の山菜園も造成し、交流を深めた人達からの口コミ等による利用者を拡げ、森林所有者に少しでも山からの収入を得させたいと考えています。

哲夫さんの夢を語る目は輝いており、山仕事で鍛えられた太い指とがっしりした体はとて75才には見えません。若々しい哲夫さんと、お茶といっしょに頂いた奥さん手作りの山うどの味噌炒めのおいしさが印象に残った取材でした。

(森林林業部)



今月のコラム



「水」の輸入の話

BS Eの発生を機に、産地や内容の偽装表示、残留農薬などの問題が大きく取り上げられ、食の安全・安心についての関心は非常に高くなってきました。功罪はともかくとしても、これまで気にもせずいた食べ物に多くの注意が払われ、払うようになる一つの契機になりました。

また、機を同じにして、スローフード、スローライフなどの言葉が頻繁に聞かれるようにもなりました。これまでの世の中の性急な動きに反して、じっくりと自分のまわりを見つめ、良いところを見直して行こうという活動であります。

地域の自然や生産物、伝統・文化などの良さを見直して、地域で出来たものを地域で消費し、それぞれの地域の発展をはかっていこうとする地産地消の運動が全国的に大きく展開されて来ております。

飽食の時代といわれ、スーパーマーケットに行

けば、季節の如何を問わず、日本のものは、もちろんのこと、世界中のものが直ぐに手に入る大変便利な時代の中であって、地域が元気になるための底辺からの地域おこしではないかと思えます。

農林水産省が2002年の家庭での食事の食べ残しや捨てる割合は5.6%で、年々低くなっていると発表しました。しかし、食料の自給率(熱供給量)は40%と先進国の中でも低く、60%を外国に頼っている。どう考えればいいのでしょうか。世界のなかには、食糧不足で餓死している子供たちもいるわけですし。

日本は農産物の輸入大国です。農産物を輸入することは、生産のために使った水を輸入していることにもなるわけです。日本の研究機関で推計したところトウモロコシ1粒の生産にはその重さの2千倍の水が必要との事ですから、輸入農産物のすべてを水に換算すれば膨大な量の水になります。

去年は「エルニーニョ現象」によるといわれる干ばつで、農産物の主要輸出国であるアメリカ、カナダ、オーストラリアなどでは大きな被害が出ていますし、世界の中では、湖・湿原の水位低下、地下水くみ上げによる地盤沈下、異常気象などが起きています。

水の惑星といわれる地球ですが人間が使える量は微々たるものだそうです。そのようななか、人の健康や食糧の生産に直接結びつく「水」は大変貴重なものといえます。

今年、日本で「世界水フォーラム」も開催されました。緑に恵まれた日本が「水」を輸入することを、更に、輸入に頼る日本の食卓を、また農業のことを、少し立ち止まり考えてみる必要があるのかも知れません。

(南会津農林事務所長 熊田 貞夫)



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
-----	-----	-----

- | | | |
|-------------------|-------------------------------------|--------------|
| ①県産小麦を使ったパン加工 | 7月1日(火) | 農業短期大学校(矢吹町) |
| ②コンバイン保守点検整備 | 7月8日(火)～9日(水) | 農業短期大学校(矢吹町) |
| ③野菜栽培のポイント | 7月13日(日) | 農業短期大学校(矢吹町) |
| ④消費者の声を活かした直売所づくり | 7月23日(水) | 農業短期大学校(矢吹町) |
| ⑤緑の学園 | 7月24日(木)～25日(金)
7月31日(木)～8月1日(金) | 農業短期大学校(矢吹町) |

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp
ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

田んぼに映る…(下郷町松原)
撮影:渡部(厚)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

PRINTED WITH
SOY INK™